

# 記録蓄積はインフラの財産

福井県道路  
メンテ会議

## 峯川繁副所長に聞く

に続く今会議の意義や抱負を改めて聞いた。

峯川氏(写真上の左)

福井県道路メンテナンス会議の今年度初の会合がこのほど敦賀市役所で開かれ、道路の老朽化対策にむけた全国的な動きや流れを受け、今後県内でも行う研修概要を説明しその重要性を再確認した。

そこで後日この会議を主催する福井河川国道事務所(道路・管理担当)を事務所に訪ね、昨年度



福井河川国道事務所

### 福井県道路メンテナンス研修

【14年度の実績】

- ・開催 国、NEXCO、県、市町の補修現場で計12回行う。
- ・参加者 延べ445人 うち国26人、NEXCO15人、県190人、市町168人、その他46人
- ・協力 福井県コンクリート診断士会、一般社団法人日本橋梁建設協会

【15年度の研修計画】

- ・第1回(実施済み) 福井県橋梁点検マニュアル説明会と橋梁点検実習 約80人参加
- ・第2回 鋼橋の点検と補修
- ・第3回 PC橋の点検と補修
- ・第4回 3大損傷に関する研修(塩害、ASR、凍害)
- ・第5回 トンネルに関する研修

※対象者は毎回、点検補修業務担当者および補修工事担当者。講師は専門協会および学識経験者が務める。なお15年度実施中の補修工事の現場研修も並行して実施。また近畿地整技術研修、橋梁保全技術研修(ニューブリッジ)、橋梁調査会点検技術研修会(橋梁点検士)の研修参加も随時案内していく。

は今春の異動で前任の古賀聡明氏を引き継ぎ、取り組みの意義を「5年に1度の近接目視点検を徹底し、記録を蓄積していけば老朽化の進行度合いを十分に把握でき、適切な判断材料となり、インフラの財産となる」などと指摘。維持修繕に必要な情報の把握や蓄積さらに共有化や見える化

にもつなげる役割を明確に示し、昨年5月の会議発足以降、現場実習も併せた研修会開催の回数が計12回にも及ぶ積極性について「近畿圏内でも福井は一番うまく展開しているのではないか。県や市町の努力はもちろん学識者や県コンクリート診断士会の助言サポートがとって有り難い」などと好循環を分析。同席した竹沢幸英

道路管理課長と片山喜どど期待感を示した。また地域一括発注の取り組み状況について峯川氏は「現在、丹南土木管内で試行し、順調に推移すると聞き、年内には取りまとめ、良好であればエリアを拡大していきたい」など



今年度初の研修会=板垣橋